

活動報告

安心ケアセンター・悠遊えごたを見学して

連休明けの5月10日、4月にオープンしたばかりの社会福祉法人悠遊の3つ目の拠点、中野区の悠遊えごたを見学した。区有地を活用した地域密着型サービス事業の公募に応じ、グループホーム、小規模多機能型居宅介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、訪問介護の4つの事業を提供する。

応募にあたっては利用者を大切に介護を提供するために、日中は玄関の鍵をかけないことを1つのポイントとして訴えた。利用者が外に出ていくのには理由があり、その気持ちを閉じこめるのではなく、受け止めて寄り添った支援をすることを基本としている。居室は掃き出し窓となっているので、いつでもベランダに出て外気を吸うこともできる。

排泄介助は利用者の尊厳にとって重要なポイントとなるので、グループホームは全室トイレ付というのが悠遊の基本。利用者は失敗しても自室でゆっくりと安心してケアが受けられる。そして感染症予防にも効果がある。また、全館のトイレに前傾姿勢を維持するレストテーブルを備え、利用者が安定した姿勢で用を足せるようにし



ている。お風呂は周囲がすべて手すりとなるユニットバスを備え、椅子は浴槽の手すり面と座面の高さを揃えて座ったまま座位をずらして浴槽に移動することができるように

ており、身体能力が低下してきても利用者がなるべく自分の力でできることを継続できるよう、福祉用具が充実している。

唯一の問題は、介護職員の不足で全事業を稼働することができていない。どこの福祉現場でも人員不足が言われており、なかなか職員が定着しない。特養などは派遣職員に頼らざるを得ないということも少なくない。1日も早くスタッフが揃い、地域の拠点として定着していくことを期待している。(松浦)



第18回総会を開催、2019年度事業活動方針を決定しました

2018年1月に事務所を5階に移転して1年が過ぎました。評価の合議には4階の会議室を利用し事務所経費の削減につながりました。

調査研究活動では、2018年度は介護予防・日常生活支援総合事業(新総合事業)に関する第3回調査報告会を衆議院議員会館で行い、3年間の継続調査が終了しました。2019年度は継続調査を踏まえて地域包括支援センターに関する調査活動に取り組みたいと思います。評価事業では、2018年度は新たな事業種として放課後等デイサービスと母子生活支援施設の評価を行うなど、評価開始以来最も多い39件の評価実績となりました。組織マネジメント項目の大幅な見直しがあり、内部研修で評価者の合意を高めながら適切な評価に努めました。2019年度の目標件数は30件とし、引き続き利用者の視点に立った評価に取り組んでいきます。

ひと・まち社の調査研究活動は、皆様の会費と寄付で支えられています。市民の視点での調査活動や評価事業に取り組んでいきますので、これからも、多くの方のご支援とご協力をお願いいたします。

- ひと・まち社へのご寄付を引き続きお願いいたします
- 振込先口座 特定非営利活動法人市民シンクタンクひとまち社
- 三菱UFJ銀行 新宿中央支店 普通 5298170

2018年度 活動計算書 (1/1~12/31)

(単位:円)

科 目	金 額		
経常収益	受取会費	457,000	14,228,599
	受取寄付金	397,488	
	受取助成金	0	
	第三者評価	12,196,200	
	調査・研究(情報発信)等	1,056,000	
	活動サポート・人材育成	121,892	
その他	19		
経常費用	人件費	3,840,124	11,610,728
	委託費	3,766,619	
	旅費交通費	967,721	
	通信運搬費	468,162	
	消耗品・事務用品費	223,988	
	印刷・広報費	518,867	
	家賃・水道光熱費	1,146,878	
	研修・図書費	56,400	
	租税公課	455,646	
	雑費	166,323	
	管理費		
人件費	253,825	572,252	
その他	318,427		
当期正味財産増減額		2,045,619	
前期繰越正味財産		187,746	
次期繰越正味財産		2,233,365	

編集後記：天皇の即位に伴う未曾有の大型10連休!さあどこへ?何をする?期待と希望に満ちたゴールデンウィーク。我が家もサンライズ出雲の旅を楽しんだ。連休が終わり、Uターンラッシュでヘトヘトになって重い荷物を引きずる様子を見てみると、果たして本当に休めたのだろうか?なかなか休むことの苦手な日本人だと思ってしまう。令和が人にやさしい年代となることを願う。(M)